

No.	担当課	事業名	事業内容	協働パートナー	協働の目的	協働の方法	協働の形態	協議会「助言コメント」
1	人権男女共同参画課	子どもに関する相談や支援事業	民間連携の相談体制と支援 ・NPO委託の相談員と市家庭相談員による相談受付体制 ・相談室の開設時間外における「24時間電話相談」 ・育児や家事、同行等支援の「育児支援家庭訪問事業」 ・NPOが運営する居場所において、食事や入浴、学習支援、相談等の支援を行う「子どもの居場所づくり事業」 ・事情により一時的に子どもを預かる「子育て短期支援事業」 ・子育てを負担に感じる保護者への親子関係を見直すためのペアレンツ・プログラムである「子育て応援セミナー」の実施 ・地域で子どもを育てていくため、実際に支援を行うことのできる市民を増やすための「児童虐待防止セミナー」の実施等	特定非営利活動法人だいじょうぶ	事業の受託先団体と市の担当が同一の相談室で業務に従事することで、相談から具体的な支援までを共有して業務にあたることができ、相談機能だけでは達成できないきめ細やかな支援を行う。	パターン1（行政とさまざまな担い手が対等なパートナーシップのもと役割分担していくもの）	委託	市と民間というお互いに立場もやり方も違う中で、同じ目的意識を以って情報共有や連携がおおむねできていることは、協働という点で非常に評価できます。また、パートナーは、自己を犠牲にしてまで、運営に協力的に携わっており評価できます。ただし立場を超えて努力される姿勢は素晴らしいものの、一方ではこの役割の不明確さは今後の継続性や発展性を考える上で必ずしも好ましくありません。行政側は、出来るだけ役割を整理し、明確化することが必要と思います。この仕事は長い期間関わるケースが多いため、主任児童員や横の連絡をうまく活用し、さらには病院や専門機関などへも連携の幅を広げ、積み上げた経験を情報化し、実務に活かしていきフィードバックしながら、次へ、または次世代へ繋げていくことが必要と考えます。
2	下水道課	鬼怒川上流流域下水道フェスティバル	栃木県、とちぎ建設技術センター及び日光市で実行委員会を設置し、鬼怒川上流浄化センターで年1回開催しているイベントです。下水道施設で、来場者に汚水が処理される工程の説明や水質実験の体験学習などを行い、下水道事業の理解や環境保全に対する意識向上を図る内容です。	鬼怒川上流流域下水道フェスティバル実行委員会	下水道の普及促進という同一の目的を担うもの同士が協働でイベントを開催することにより、下水道や環境保全に対する市民の考えや意向など、情報の収集や共有化が図れます。	パターン1（行政とさまざまな担い手が対等なパートナーシップのもと役割分担していくもの）	実行委員会・協議会	下水道の普及促進を事業目的とするイベントですが、イベントがそのまま「下水道の普及と促進」に繋がると期待するには少し無理があると思われる。しかしこうした大型のインフラ事業には地域住民の理解と協調が不可欠で、自分たちが使用している下水道がどのように処理されどこへ流れていくかを分かりやすく知る良い機会になっていると思います。その意味からは必要性の高いイベントであり、協働事業としてこれを成功裏に行っていることは評価に値します。ただし協働のパートナーが関係事業者に限られている点は今後の広がり懸念を残します。また「下水道」は単なる処理設備としての意味だけでなく、特にこの日光では環境保全としての大切な役割を担うものと思います。これまでのイベントによって住民の理解を得られた今、従来の楽しいイベントの枠を超え、市民の理解と協調が如何に環境の保全に繋がっているかなど、より大きな視点で目的を捉え、協働を進めていかれるよう期待しております。
3	環境課	弁天沼湿原保全活動事業	日光市木和田島にある弁天沼は、貴重な動植物種の生息が確認され、県の自然環境保全地域に指定されているが、近年地下水位の低下による乾燥化や雑草類の繁茂により周辺環境が悪化しつつある。貴重な自然を永続的に守っていくために、弁天沼とその周辺の保全活動に取り組む。	弁天沼周辺環境保全会	・弁天沼および周辺環境の保全 ・弁天沼周辺環境保全会を中心とした市民の環境保全意識の向上、地域活動参画機会の増加 ・環境教育の場・観光資源としての活用機会の検討	パターン2（さまざまな担い手は中心となって、そこに行政が支援していくもの）	情報の共有、委託	・貴重な動植物種の永続的な保全には、2者で行う現在の活動の他、専門的な部分の活動が必須だと思う。貴重な自然を守っていくため、新たなパートナーについて、一刻も早く検討して頂きたい。 ・定期的に調査を行い、生態系の変化などのデータをとり記録に残していくことで、事業の効果、目標を数値化するとともに、将来的な長期計画の策定を検討していただきたい。 ・生態系のバランスが崩れトンボが減っている現状などは、子供達にとっても大いに興味のある内容だと思う。子供達が地元の環境を誇りに思えるような環境教育等や、若い担い手（小学生など）を対象にした社会奉仕活動の実施を検討するとともに、後継者の育成に努めてほしい。 ・弁天沼の存在や事業についてほとんど知られていないと思うので、活動を広報する役割を追加し、弁天沼の存在や事業についての認知度を上げるとともに、本事業の効果を積極的に公表することで、地元の方のモチベーションを上げていくことが必要と思う。 ・パートナーが主体性をもって事業実施できるような対等な関係の構築が必要である。 ・気候の変動などによって元々の状態の維持が困難であるということから、その現状や過程をより多くの方に知ってもらうことこそ意味があると考えます。多くの方に関心を持ってもらい支援の輪を広げることで保全会の負担を増やさないこともできるため、今後は啓発活動にも力を注いでいただきたい。
4	足尾行政センター	まちづくり団体との協働による足尾地域振興事業	①産業遺産及び環境学習に係る情報の交換、共有及び発信 ②産業遺産の活用 ③環境学習の推進	足尾地域の市民団体、NPO法人及び企業	産(学)官民の協働により、足尾地域の産業遺産と環境学習を活かした地域活性化を進める。(学)は宇都宮大学による支援	その他(目的達成のため、市民団体、NPO法人及び企業が連携を図る際に、市は連絡調整を担当)	情報の共有、課題分析・原因分析への参加、実行委員会・協議会	・当事業は、それぞれの組織・団体が共通の目標である足尾地域活性化のための連絡調整や協議を行い、事業実施状況の報告も行うことにより、お互いの役割を最大限に発揮できる組織になっていると思う。 ・各団体や企業の活動が地元で周知されていないので、広報等に掲載するなど、実施している事業を積極的にPRして、活動を広めて欲しい。 ・足尾町という特殊な企業城下町の背景を考慮すると、複数の団体がまとまり交渉する場を持たないということは、これまでの苦労や努力が実った結果であると思う。各組織のモチベーションが今後も受け継がれ、広く市民へ還元されるよう、また活動が偏ることなく広く活発に展開されるよう期待している。